

研究主題「身に付けるべき力を明確にすることで、
意欲を喚起させ、技能の向上を図る指導の工夫
- 体育科 ボール運動（バスケットボール）を通して -」

東京都教職員研修センター企画部企画課
練馬区立大泉東小学校 主幹 井口 洋

研究のねらい

平成 17 年度東京都児童・生徒の体力テスト調査報告書（平成 18 年 3 月）では、体力の低下傾向の要因として、運動遊びやスポーツの機会の減少、運動を積極的に行う子どもとそうでない子どもの二極化傾向などが挙げられている。生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現させていくためには、友達など他者とのかかわり合いを通して、児童の学ぶ意欲を高め、学び方を身に付けさせることが重要である。

ボール運動は、仲間と協力しながら、自分のチームの特徴に応じた作戦を立ててゲームを行い、集団対集団で得点を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。このことから、チームの特徴を知ることや作戦を立てることなど、指導の重点が、チームの高まりに置かれることが多く、個人の意欲を喚起し、技能の向上への指導は十分になされていないことが多かった。

そこで、個人の技能習得のために、「身に付けるべき力」を明確にし、個人の技能の向上を図る必要があると考えた。このことから個に応じた学習カードを作成し、指導を工夫することにより、児童は楽しみながら、その力を身に付けることができると考え、研究主題を「身に付けるべき力を明確にすることで、意欲を喚起させ、技能の向上を図る指導の工夫 - 体育科 ボール運動（バスケットボール）を通して -」として設定した。

研究の内容と方法

1 研究仮説

上記の主題を達成するため、仮説を立て検証することにした。

児童の「身に付けるべき力」を明確にし、具体的な技能の段階を示した学習カード等を使った指導を繰り返せば、児童の学習意欲を喚起し、技能を向上させることができる。
--

2 基礎研究

小学校、中学校学習指導要領及び解説・体育編や国立教育政策研究所「内容のまとめりの評価規準及び具体例」（平成 14 年 2 月）の内容の分析等を基に、「身に付けるべき力」についての内容を明らかにした。

ボール運動では、チームに適した課題をもって運動を行い、その運動に応じた技能を身に付け、簡単な作戦を生かしてゲームができるようにすることが、技能の内容である。そして、バスケットボールでは、その場からのシュート、走りながらのシュート、パス、パスキャッチ、ドリブルが個人的技能の内容であるととらえた。

3 実践研究

本研究では、仮説を検証するため次の三点を研究の視点とした。

- ・バスケットボールの学習において、「身に付けるべき力」と技能の段階を明確にすること
- ・個に応じた技能の向上を図る指導の工夫をすること

- ・ 「身に付けるべき力」を身に付けさせるための指導過程の工夫をすること

(1) バスケットボールの学習において、「身に付けるべき力」と技能の段階の明確化について
「ボール運動とバスケットボールの学習で『身に付けるべき力』の一覧」の作成（表1 補助資料）

小、中学校学習指導要領及び解説・体育編等を分析し、ボール運動領域とバスケットボールの学習で「身に付けるべき力」を、明確かつ具体的に表した。また、参考値例の数値を記載することで、判断基準を示した。（内容及び参考値例の根拠は、補助資料 参照）

表1 バスケットボールの学習で「身に付けるべき力」（シュートの技能）

項目	バスケットボールの学習（5・6年生）で身に付けるべき力の内容		参考値例 （都内A小学校の判断の目安）	
			5年	6年
技能 ボール操作 シュート	その場で	パスを受けて、片方の手や両方の手で、やわらかく山なりのシュートを入れる	バスケットゴール下からのシュート成功率：10%	バスケットゴール下からのシュート成功率：20%
	走りながら	動きながらパスを受けて、下手投げでシュートを入れる	バスケットゴール下からのシュート成功率：10%	バスケットゴール下からのシュート成功率：20%

補助資料 ボール運動、バスケットボールの学習で「身に付けるべき力」の一覧（技能）より抜粋
バスケットボール「ステップ表」の作成（表2 補助資料）

「ボール運動とバスケットボールの学習で「身に付けるべき力」の一覧」（表1）に示した技能を児童に的確に伝えるために、技能の段階を明確にしたバスケットボール「ステップ表」を作成した。技能の段階は、「チャレンジ」を「身に付けるべき力」とし、「チャレンジ」を「身に付けるべき力」が身に付いていない段階、「チャレンジ」を「身に付けるべき力」を身に付けさらに技能の向上を目指す段階の3段階とした。また、児童に現在の自分のできばえをつかませ、自分のめあてを立てさせるための教師の資料とした。

表2 バスケットボール 「ステップ表」

技	チャレンジ	ポイント1	チャレンジ	ポイント2	チャレンジ
シュート	その場から 片方の手や両方の手でゴールに向けて、やわらかく山なりのボールを投げる ことができる。	ボードにある黒い四角内にボールをやわらかく当てよう。	「身に付けるべき力」 パスを受けて、片方の手や両方の手で、やわらかく山なりのシュートを入れることができる。〔 〕	ピポットで素早く体の向きを変えてみよう。大きな山なりのシュートになるようにしよう。	パスを受けて、素早い動作で、ゴールまで2～3m離れた所から、シュートを入れることができる。

補助資料 バスケットボール「ステップ表」より抜粋

「身に付けるべき力」の技能
「チャレンジ」学習カードの段階

(2) 個に応じた技能の向上を図る指導の工夫について

児童の学習意欲を喚起し、技能の向上を図る学習カード（「チャレンジ」学習カード）の作成（図1 補助資料）

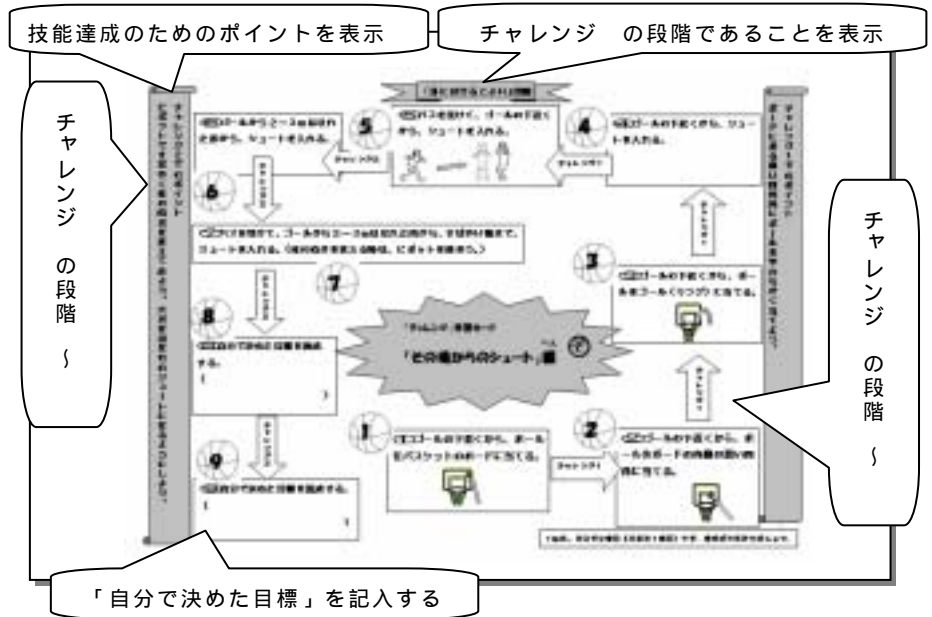
個に応じた技能の向上を図るために、児童が自分の伸びを実感し、技能の実現状況が段階的に分かる学習カードを作成した。「身に付けるべき力」が身に付いていない児童でも、その時点の技能で達成できる段階の内容項目を設定した。また、「身に付けるべき力」を習得した児童には「自分で決めた目標」段階を設け、さらに技能を高められるように設定

した。このように、個々の児童における技能の段階に応じるため、「ステップ表」の3段階をさらに細分化し、すべての技能の段階の児童でも活用できる学習カードとした。

「チャレンジ」学習カードの活用の工夫

図1 「チャレンジ」学習カードから抜粋 「その場からのシュート」編

学習カードは、「身に付けるべき力」の個人技能を基に、「その場からのシュート」「走りながらのシュート」「パスを投げる」「パスキャッチ」「ドリブル」の「5種類の技能」としてとらえ分類した。それぞれの学習カードは、児童個人の技能の実現状況に応じて、5種類のどの「技能」のどの段階



階からでも、練習を始めることができるようにした。さらに、毎時間「技能」を替えて練習することも可能とし、児童の意欲を喚起し、技能の向上を図るものとした。

この学習カードの活用については、単元開始時から毎時間この学習カードの「絵図や言葉」を参考に、友達とできばえを見合い、確かめ合って学習を進めることができるようにした。技能を習得した時には色塗りをさせる等、一目で習得状況が分かるようにした。

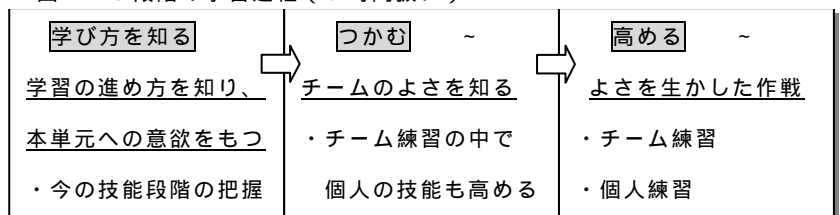
(3) 「身に付けるべき力」を身に付けさせるための指導過程の工夫について

児童が、自分に合っためあてをもち、友達と互いにかかわる中で学習意欲を高め、チームの力と個人の技能を高めることをねらいとして指導過程の工夫をした。

チームの力と個人の技能を高める3段階の学習過程の工夫（図2）

ボール運動では、個人の技能を高めること及び、チームの作戦を生かし、チームの力を高めることが大切である。チームの作戦を生かすためには、その作戦がチームのよさに合ったものでなければならない。

図2 3段階の学習過程（9時間扱い）



そこで、「学び方を知る」段階、チームのよさを知る「つかむ」段階、チームのよさ生かした作戦を立てて練習やゲームをする「高める」段階の3段階で学習過程を構成した。

- ・「学び方を知る」段階...「チャレンジ」学習カードを活用して、自分自身の単元開始時の技能の段階を把握する。
- ・「つかむ」段階...ゲームを振り返り、各自の「技能」と段階を伝え合い、チーム内で練習することを決める。ゲームやチーム練習を通して、チームのよさを知る。
- ・「高める」段階...ゲームを振り返り、作戦を修正した後、「チャレンジ」学習カードを活用

して、チーム練習の時間と個人練習の時間で、個人の技能の向上を図る。

かかわり合いを通して技能を高める1単位時間の工夫（図3）

「高める」段階では、1単位時間にゲームとチーム練習、個人練習の時間を設定した。

- ・チーム練習の時間...「チャレンジ」学習カードを基に、チーム内で決めた練習をする中で、チーム内の友達とできばえを見合い、確かめ合って学習を進め、チームの力と個人の技能を高める。
- ・個人練習の時間 ...各自が「チャレンジ」学習カードの「技能」ごとの練習場所に移動し、チーム以外の友達と「技能」のできばえを見合い、確かめ合って学習を進め、学級全体の個々の技能を高める。

研究の結果と考察

1 検証授業について

- (1) 第5学年「バスケットボール」(9時間扱い)の実施
- (2) 検証授業で明確になったこと

「身に付けるべき力」と、技能の段階及び指導のポイントが明確になったことで、指導が的確になり、個々の技能の向上を図れるようになった。

学習カードを活用したことで、友達とできばえを見合い、確かめ合って、学習を進めることが出来、技能の習得に対して、意欲的に取り組むようになった。

単元を3段階にしたことや1単位時間にチーム練習の時間と個人練習の時間を設定したことで、チームの力と個人の技能を高めることができた。

2 結果と考察

研究の3視点の具体策として「『身に付けるべき力』と技能の段階を明確にし、一覧表を作成したこと」「学習カードを作成し、個に応じた技能の向上を図る指導を繰り返し行ったこと」「意図的に、個人練習の時間を設定し、『身に付けるべき力』を身に付けさせる指導過程を工夫したこと」で、児童の学習意欲を喚起し、技能の向上を図ることにつながった本研究は有効であった。

今後の課題

1 「身に付けるべき力」の参考値例の精査

参考値例として判断の目安を示したが、「身に付けるべき力」の一般的な参考値を示すために、今後もデータの収集をしていく。

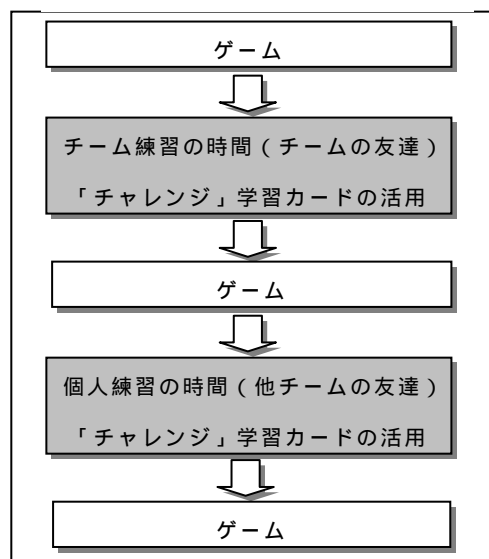
2 技能の習得状況を把握させるための資料作成

相互の活動を児童同士で見合い、確かめ合って技能を習得したかを把握させるために、「5種類の技能」ごとに、言葉や絵等で具体的にその状況が分かるように示す必要がある。

3 「個人練習」と「チーム練習」の指導の関連性

学習が進むにつれて、個人練習において児童が身に付けようとする「技能」とチームの中で求められている「技能」が異なってしまいう場面や、個人練習で習得した「技能」を、ゲームの中で生かせない場面があった。今後、チーム練習と個人練習について相互に関連性をもたせた指導方法について研究する必要がある。

図3 1単位時間の主な学習の流れ



「身に付けるべき力を明確にすることで、意欲を喚起させ、技能の向上を図る指導の工夫
- 体育科 ボール運動（バスケットボール）を通して -」

補助資料

ボール運動、バスケットボールの学習で「身に付けるべき力」の一覧（技能）

ボール運動、バスケットボールの学習で「身に付けるべき力」の一覧（技能）

項目	ボール運動（5・6年生）で「身に付けるべき力」の内容	参考事例 （郷内A小学校の判断の目安）	
		5年	6年
ドリブル	ボールをつきながら、周りを見て移動する	ゆっくり歩きながら10回連続	ゆっくり走りながら10回連続
	パスを受けて、片方の手で、やわらかく山なりのシュートを入れる。動きながらパスを受けて、下手投げでシュートを入れる	バカバカ等：5～7m カバ等：13～20m 成功：50%	バカバカ等：7～10m カバ等：15～25m 成功：75%
	上手投げでボールを投げる	成功：50%	成功：75%
パス	味方や相手の位置と距離に応じて、上手投げでボールを投げる	成功：50%	成功：75%
	手でボールを打ったり、操作したりする	成功：50%	成功：75%
	パスを受けて、両方の手で、やわらかく山なりのシュートを入れる	バカバカ等：5～7mからのシュート成功：10%	バカバカ等：5～7mからのシュート成功：20%
ドリブル	味方や相手の位置と距離に応じて、パスを投げる	3～5mの距離で成功：50%	3～5mの距離で成功：75%
	受けやすい位置に動いて、両方の手でボールを捕らえる	成功：75%	成功：90%
	用具でボールを打つ	成功：30%	成功：50%
ドリブル	空中のボールを落とさないように打つたり、操作したりする	2～3回連続	3～5回連続
	動いているボールをスピードを調節して蹴る	成功：50%	成功：75%
	ゆっくり歩きながら、周りを見て移動する	成功：50%	成功：75%
ドリブル	ボールを蹴りながら、周りを見て移動する	成功：50%	成功：75%
	蹴がってくるボールを足などを蹴って止める	成功：50%	成功：75%
	ボールや相手を見ながら、パスやドリブルを蹴ってボールを選びシュートする	まあまあできる（※3）	まあまあできる（※3）
ドリブル	ボールや相手を見ながら、防衛をする	＃	＃
	ボールを見ながら、全力で次の型に向かって走り、必要に応じて止まったり、前の型に戻ったりする	＃	＃
	主なるルールや反則について理解し、ゲームを進める	まあまあできる（※3）	まあまあできる（※3）

※1 下手投げとは、片方の手の上にボールを置き、片方の手でまたはもう一方の手を添え、手を下に伸ばした状態で振り子のように使い投げることをいう。
 ※2 上手投げとは、片方の手の上にボールを置き、片方の手でまたはもう一方の手を添え、肩口から投げることをいう。
 ※3 具体的な行動が表れる率として「ほとんどできる」は90%程度、「まあまあできる」は70～80%程度、「まあまあできる」は50～60%程度と考えることができる。
 参考資料 小学校学習指導要領および解説・体育編、中学校学習指導要領および解説・体育編
 国立教育政策研究所「内容のまともなことの経緯編酒及びその具体例」
 「身に付けるべき力一覽表」（平成17年度 中教員研究会）
 「6年間を通して身に付けさせたい力」（平成16年度 東京都教育研究員＜小学校体育＞）

項目	バスケットボールの学習（5・6年生）で「身に付けるべき力」の内容	参考事例 （郷内A小学校の判断の目安）	
		5年	6年
ドリブル	パスを受けて、片方の手や両方の手で、やわらかく山なりのシュートを入れる	バカバカ等：5～7mからのシュート成功：10%	バカバカ等：5～7mからのシュート成功：20%
	動きながらパスを受けて、下手投げでシュートを入れる	成功：50%	成功：75%
	上手投げでボールを投げる	成功：50%	成功：75%
パス	味方や相手の位置と距離に応じて、上手投げでボールを投げる	成功：50%	成功：75%
	手でボールを打ったり、操作したりする	成功：50%	成功：75%
	パスを受けて、両方の手で、やわらかく山なりのシュートを入れる	バカバカ等：5～7mからのシュート成功：10%	バカバカ等：5～7mからのシュート成功：20%
ドリブル	味方や相手の位置と距離に応じて、パスを投げる	3～5mの距離で成功：50%	3～5mの距離で成功：75%
	受けやすい位置に動いて、両方の手でボールを捕らえる	成功：75%	成功：90%
	用具でボールを打つ	成功：30%	成功：50%
ドリブル	空中のボールを落とさないように打つたり、操作したりする	2～3回連続	3～5回連続
	動いているボールをスピードを調節して蹴る	成功：50%	成功：75%
	ゆっくり歩きながら、周りを見て移動する	成功：50%	成功：75%
ドリブル	ボールを蹴りながら、周りを見て移動する	成功：50%	成功：75%
	蹴がってくるボールを足などを蹴って止める	成功：50%	成功：75%
	ボールや相手を見ながら、パスやドリブルを蹴ってボールを選びシュートする	まあまあできる（※3）	まあまあできる（※3）
ドリブル	ボールや相手を見ながら、防衛をする	＃	＃
	ボールを見ながら、全力で次の型に向かって走り、必要に応じて止まったり、前の型に戻ったりする	＃	＃
	主なるルールや反則について理解し、ゲームを進める	まあまあできる（※3）	まあまあできる（※3）

※1 下手投げとは、片方の手の上にボールを置き、片方の手でまたはもう一方の手を添え、手を下に伸ばした状態で振り子のように使い投げることをいう。
 ※2 上手投げとは、片方の手の上にボールを置き、片方の手でまたはもう一方の手を添え、肩口から投げることをいう。
 ※3 具体的な行動が表れる率として「ほとんどできる」は90%程度、「まあまあできる」は70～80%程度、「まあまあできる」は50～60%程度と考えることができる。
 参考資料 小学校学習指導要領および解説・体育編、中学校学習指導要領および解説・体育編
 国立教育政策研究所「内容のまともなことの経緯編酒及びその具体例」
 「身に付けるべき力一覽表」（平成17年度 中教員研究会）
 「6年間を通して身に付けさせたい力」（平成16年度 東京都教育研究員＜小学校体育＞）

補助資料 バスケットボール 「ステップ表」

バスケットボール 「ステップ表」

ステップ表とは、バスケットボールのいろいろな「技」のできばえを書いたものです。それぞれの「技」の達成度を3段階(チャレンジⅠ・Ⅱ・Ⅲ)にしました。今の自分のできばえをつかみ、自分のめあてを立てさせるための資料です。また、めあて達成のためのアドバイス(ポイント1、ポイント2)を書きました。「チャレンジⅡ」が「身に付けるべき力」の段階です。

技	チャレンジⅠ	ポイント1	チャレンジⅡ	ポイント2	チャレンジⅢ
シュート	片方の手や両方の手でゴールに向けて、やわらかく山なりのボールを投げるができる。	ボードにある黒い四角内にあるボールをやわらかく当てよう。	パスを受けて、片方の手や両方の手で、やわらかく山なりのシュートを投入することができる。〔⑤〕	ピポットで素早く体の向きを変えてみよう。大きき山なりのシュートになるようにしよう。	パスを受けて、素早い動作で、ゴールから2～3m離れた所から、シュートを投入することができる。
	走りながら	下手投げでゴールに向かかって、ボールを当てることができる。	動きながらパスを受け、下手投げでシュートを投入することができる。〔③〕	数歩の助走から、1(いち)2(に)のリズムでシュアンプしよう。	走りながらパスを受けて、1(いち)2(に)のリズムでシュートを投入することができる。
パス(投げる)	距離は短かいが、ねらった方向へ投げることができる。ねらった方向へ投げることができない。ねらった所は違うが、ちよいと良い距離を投げるができる。	ねらった所より少し上を目掛けて投げよう。最後まで味方の構えにいる手を見て投げる。	味方や相手の位置と距離に応じて、味方の構えた所などに、パスをすることができる。〔③〕	ボールを持っていてる位置から素早く、足を一歩踏み出して投げよう。動いている人の前方に投げよう。	離れた距離の、動いてる味方の胸の前に、捕りやすいボールをパスすることができる。
パス(キャッチ)	腕を軽く曲げ、ある程度衝撃を和らげながら、ボールを捕ることができる。	周りをよく見て、相手のいない所へ動いてみよう。両方の手の親指と人差し指で三角形をつくって構えよう。	受けやすい位置に動いて、両手キャッチでき、ボールを捕ることができる。〔③〕	しつかりとボールを見よう。捕る時に、少しい腕を引こう。両方の手の指をしつかり閉こう。	離れた距離で、動きながらボールをキャッチすることができる。
ドリブル	ボールばかりを見てしまいが、ボールをつきながら移動することができる。	味方を見てボールをついてみよう。指先でボールを包むようについでみよう。	ボールをつきながら、周りを移動することができる。〔③〕	ボールを見ないで続けてついでみよう。手のひらの向きを前後左右に変えてみよう。	ボールをついて、走りながら相手をかわして、シュートや味方にパスをすることができる。

〔〇数字〕は、バスケットボール段階カードのできばえです。

「身に付けるべき力を明確にすることで、意欲を喚起させ、技能の向上を図る指導の工夫 - 体育科 ボール運動（バスケットボール）を通して -」

補助資料 「チャレンジ」学習カード

「身に付けるべき力」図説

④ゴールから2～3mはなれた所から、シュートを入れる。 (チャレンジ2)

⑤バスを投げて、ゴールの下近くから、シュートを入れる。 (チャレンジ3)

⑥ゴールから2～3mはなれた所から、素早い動きで、シュートを入れる。(体の向きを変える時は、ピボットを崩さず。)

⑦自分で決めた目標を達成する。()

⑧自分で決めた目標を達成する。()

チャレンジ1

チャレンジ2

チャレンジ3

チャレンジ4

①ゴールの下近くから、ボールをゴール(リング)に当てる。(チャレンジ1)

②ゴールの下近くから、ボールをボードの内側の黒い四角に当てる。(チャレンジ1)

③ゴールの下近くから、ボールをボードの内側の黒い四角に当てる。(チャレンジ1)

④ゴールの下近くから、ボールをバスケットのボードに当てる。(チャレンジ1)

⑤自分で決めた目標を達成する。()

⑥自分で決めた目標を達成する。()

「その場からのシュート」編

「チャレンジ」学習カード

① 1mは、およそ2歩分(大まかに1歩お)です。歩幅ははかりましょう。

「身に付けるべき力」図説

④ゴールから2～3mはなれた所から、シュートを入れる。 (チャレンジ2)

⑤バスを投げて、ゴールの下近くから、シュートを入れる。 (チャレンジ3)

⑥ゴールから2～3mはなれた所から、素早い動きで、シュートを入れる。(体の向きを変える時は、ピボットを崩さず。)

⑦自分で決めた目標を達成する。()

⑧自分で決めた目標を達成する。()

チャレンジ1

チャレンジ2

チャレンジ3

チャレンジ4

①ゴールの下近くから、ボールをゴール(リング)に当てる。(チャレンジ1)

②ゴールの下近くから、ボールをボードの内側の黒い四角に当てる。(チャレンジ1)

③ゴールの下近くから、ボールをボードの内側の黒い四角に当てる。(チャレンジ1)

④ゴールの下近くから、ボールをボードの内側の黒い四角に当てる。(チャレンジ1)

⑤自分で決めた目標を達成する。()

⑥自分で決めた目標を達成する。()

「走りながらのシュート」編

「チャレンジ」学習カード

① 1mは、およそ2歩分(大まかに1歩お)です。歩幅ははかりましょう。

バスケットボール

「チャレンジ」学習カード

「その場からのシュート」編 「走りながらのシュート」編

「バスを投げる」編 「パスキャッチ」編 「ドリブル」編

シュート、パス、ドリブルどれからチャレンジしてもかまいません。

- ・マイスタートを決めてスタートまでのボールに色をぬりましょう。
- ・マイゴール(学習の終わりのころ)を決めてボールに色をぬりましょう。
- ・2人以上、多くの人に見てもらって、できたらボールに色をぬりましょう。

名前

今日のチャレンジのできえを書きましょう。

書き方の例) ④2	今日のチャレンジ	チャレンジをかせた時は、上の行に書きましょう。
月日		

「身に付けるべき力を明確にすることで、意欲を喚起させ、技能の向上を図る指導の工夫 - 体育科 ボール運動（バスケットボール）を通して -」

補助資料 「チャレンジ」学習カード

チャレンジカードのポイント
動きを覚えること、動きのつなぎを覚えること、動きのつなぎのつなぎを覚えること。

④ 5m以下はなれたきより、ゆっくり動いている味方の前へ、走りながらボールをパスする。

⑤ 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

⑥ 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ2

① 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

② 3～5m以下はなれたきより、味方の前へ走りながらボールをパスする。

③ 3～5m以下はなれたきより、味方の前へ走りながらボールをパスする。

④ 自分で決めた目標を達成する。

⑤ 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ1

「チャレンジ」学習カード
「パスのつなぎ」

① 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

② 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ2

③ 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

④ 自分で決めた目標を達成する。

1.mは、およそ2歩目（次まで1歩目）です。歩数ははかりません。

チャレンジカードのポイント
動きを覚えること、動きのつなぎを覚えること、動きのつなぎのつなぎを覚えること。

④ 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

⑤ 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

⑥ 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ2

① 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

② 3～5m以下はなれたきより、味方の前へ走りながらボールをパスする。

③ 3～5m以下はなれたきより、味方の前へ走りながらボールをパスする。

④ 自分で決めた目標を達成する。

⑤ 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ1

「チャレンジ」学習カード
「パスのつなぎ」

① 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

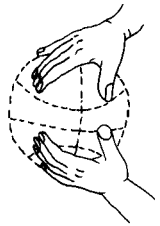

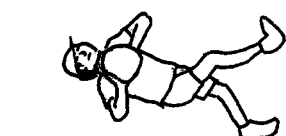
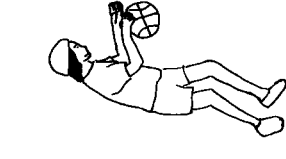
② 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ2

③ 5m以下はなれたきより、走りながら相手をかかわり、シュートや味方にやりやすいパスをする。

④ 自分で決めた目標を達成する。

1.mは、およそ2歩目（次まで1歩目）です。歩数ははかりません。

友達と教え合って、練習しよう。

チャレンジカードのポイント
動きを覚えること、動きのつなぎを覚えること、動きのつなぎのつなぎを覚えること。

④ 5m以下はなれたきより、走りながらボールをキャッチする。

⑤ 5m以下はなれたきより、走りながらボールをキャッチする。

⑥ 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ2

① 5m以下はなれたきより、走りながらボールをキャッチする。

② 5m以下はなれたきより、走りながらボールをキャッチする。

③ 5m以下はなれたきより、走りながらボールをキャッチする。

④ 自分で決めた目標を達成する。

⑤ 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ1

「チャレンジ」学習カード
「パスキャッチ」

① 5m以下はなれたきより、走りながらボールをキャッチする。

② 自分で決めた目標を達成する。

チャレンジ2

③ 5m以下はなれたきより、走りながらボールをキャッチする。

④ 自分で決めた目標を達成する。

1.mは、およそ2歩目（次まで1歩目）です。歩数ははかりません。